

観光客支える「旅サポ」

紅葉狩り「残念な思いさせぬ」

紅葉が見ごろを迎えた柏崎市緑町の日本庭園「松雲山荘」で恒例のライトアップが始まり、高齢や障害の有無にかかわらず気軽に観光を楽しめる「ユニバーサルツーリズム」を促進しようと、ボランティアの「旅サポーター（旅サポ）」たちが、急坂でも上れる専用車いすを使った地道な活動を続けている。ライトアップは24日まで。

「いやーだー」。市内の社会福祉施設を利用する西川康平さん(36)は、専用車いすへの乗車を嫌がった。知的と身体重度障害があり、紅葉狩りを経験させたいとの家族の希望で、施設のヘルパー支援員が付き添ってきた。

支援員が困っていると、旅サポの押見敏昭さん(54)は「本人の意思を尊重しましょう」と、西川さんが行く気になるまで気長に待った。坂の上の庭園からは祭りの音楽も聞こえ、大勢の観光客が上っていくのを見て、西川さんも自主的に専用車いすに乗り移った。旅サポら3人がかりで砂利道を上り、西川さんは初めて上の庭園で紅葉を鑑賞

柏崎・松雲山荘ライトアップ

した。

バスツアーで水戸市から来た女性(84)は足が不自由で、他のツアー客とは別行動を強いられ、さみしい思いをしていた。押見さんがツアーコンダクターに声がけし、女性が希望して専用車いすを利用、ライトアップされた紅葉を楽しんだ。女性は「希望がかなえられて満足です。素晴らしい取り組みで、地元の方のおもてなしに感激しました」とうれしそうに語った。

糸魚川市から家族5人で訪れた木島桂子さん(44)は、足が弱っている母(73)が自力で坂を上ったが、下るときに転ばないよう専用車いすを利用。「声をかけてもらって助かりました。いい取り組みなので、もっと広がってほしい」と話した。ボランティアのスタッフには、旅サポの趣旨に賛同し加茂市から自費で来ている主婦もいた。押見さんは「県外、市外からこんなに観光客が来てくれるのだから、残念な思いをさせないよう、活気あるまちにしたい」と話した。旅サポは土曜・祝日午後5時〜同8時、正面案内所に待機している。

【内藤陽】



紅葉狩りを楽しむため、砂利の坂道を上る西川さんを支援する旅サポら—柏崎市緑町で